

令和3年度2学期終業式 訓話

校長 江川 数 司

今日で2学期が終わります。また、令和3年という年も、本日を入れて、残すところ10日となりました。みなさん、今年の1年はどうだったでしょうか。オミクロン株の登場でコロナウィルス感染症の心配はまだまだ続き、2年前までのように、全ての心の扉を開放して「楽しめる」空間や時間は手に入りそうもありません。マスクの着用や手指消毒、換気と黙食など「新しい」と言われた生活様式も、もうすっかりと日常化してしまいました。

ただ、今年は昨年と違って、総体や夏の高校野球など、大会やコンクールが中止されることはなく、いくらかの制限はありましたが、活動の成果を披露する場が確保されました。本校学園祭も今年は「Advance～輝く瞬間を～」をテーマに、悪天候の合間をぬって、立派にやりきり、盛り上がりました。無観客ではありましたが東京オリンピック・パラリンピックも開催され、こうした動きは社会全体で、コロナ感染症とのつきあい方について、迷いながらも検討し、対策を進め、実行を決断していくといったプロセスを何度も繰り返した結果、多くの知見や学びを得ることができたからだと言えます。それは、私たちがこれまでにおとした失敗をもとに、これまでとは違う新しいやり方、これまでとは違う成功の形を求め続けてきたからに他なりません。言い換えれば価値観自体を変える柔軟な姿勢があったからこそ、ここまで来ることができたとも言えるでしょう。

話しは変わりますが、先日、1・2年生のみなさんが受けたスタディ・サポートの分析結果を見せてもらいました。そこには、平均でみると本校の1・2年生ともに「基礎学力定着具合が上がってきています」との報告がありました。みなさんのこれまでの努力が基礎学力の定着につながっていることを大変嬉しく思います。しかし、一方で1・2年とも「学習時間の減少が気になります」とのコメントがありました。また、2年生では「早めに受験生としての意識づけが必要」、1年生では「1年生の間に家庭学習の習慣をつけておきたい」というアドバイスが書いてありました。さらに、私が気になったのは「学習のとらえ方」という項目で1・2年とも平均スコアが低下してきているという事実でした。この項目は「習ったことどうしの関連を考える」「何がわかっていないかを確かめな

から学習する」「答えが合っていたかだけでなく、考え方があってきたかを大切に
にする」「間違えた問題はあとから解き方を調べる」などの内容です。こうした
ことが、みなさんの学習には欠けているのではないかという指摘です。

私はこのことが学習時間の減少にもつながっていると思いました。みなさん、
答えだけを求める勉強をしていませんか？ふり返ってみてください。テストが
終わったら、できなかった問題はもうどうでもよいですか？何のための勉強で
しょう？もちろん時間は有限です。全てをパーフェクトに理解することはでき
ないでしょう。しかし、自分が一度かかわった限りは、「そういう意味だったん
だ」「そういう内容だったのか」「そういう話しだったのね」と自分にとっての理
解を、納得感を得られるまで粘ってほしいと思います。

1・2年生のみなさんの話ばかりしてきましたが、3年生のみなさんにも考え
てもらいたい。3年生のみなさんは、来月15・16日にいよいよ共通テストを
迎えます。追い込みに余念が無いと思いますが、勉強の本質は変わらないと思
います。もう一度訊きます。答えさえ合えばいいですか？進路がすでに決定して
いる人も、ここで、考えてみてください。これまで何のために勉強をしましたか？
勉強がこれからも必要ですか？それはどうしてですか？

現実世界は正解の無い世界です。私たちはコロナ感染症と向き合って、悩み、
苦しみ、それでも成功させたいという願いを求めてここまで来ました。答えだけ
を知る勉強では太刀打ちできません。悩み・迷い、決断の苦しみを味わってこそ、
未来を開いていく、すなわち生きる力が育まれます。勉強には必ず悩みや迷いが
あり、そう簡単に正解はできません。それが本当の勉強です。誰かが提案した答
えを○か×かだけでしか判断できない人々が増えるとどうなるでしょう？おそら
くこの世界は「いいね」という賞賛か「だめだこりゃ」という批判の両極端な価
値観に支配される分断社会に陥ります。残念ながら私は、地球規模で今、そんな
社会になりつつある恐ろしさを感じています。

そこで、また昨年度のように私から課題を出します。来年1月1日に Google
Classroom の校長クラスで簡単な課題を配信します。お題は「あなたは何のために
勉強するのですか？」です。受信したみなさんは添付されたフォームというアプ
リのファイルを開き、それにお答えください。提出いただいたみなさんには、私
から心ばかりのプレゼントを差し上げます。以上で私の講話を終わります。